

記 者 提 供 資 料
令 和 6 年 (2 0 2 4 年) 7 月 2 5 日
産 業 振 興 室 豊 かな 海 づ くり 課 渡 邊 ・ 福 田 (直 通) 0 7 8 - 9 1 8 - 5 2 5 4 (内 線) 2 5 8 5

マダコ種苗放流の実施

兵庫県が（公財）ひょうご豊かな海づくり協会に委託して取り組んでいるマダコの種苗量産開発については、今年度から、本市も委託事業として2者と連携して取り組んでおります。

この度、放流の目安となる着底稚ダコ*の生産に成功しましたので、下記のとおり放流します。放流数はこれまでの事例では最多規模で、量産された着底稚ダコの継続的な放流の試みは全国初の取組です。マダコ種苗生産については別添資料をご参照願います。

記

1 放流日時

2024年(令和6年)8月5日(月)午前10時～ (予備日:8月7日(水))

2 放流場所

江井ヶ島海岸 西側防波堤(明石市大久保町江井島)

3 放流予定数

着底稚ダコ(日齢約40日) 約2,000匹(生産状況により変更する場合あり)

4 生産施設

(公財)ひょうご豊かな海づくり協会明石事業場(明石市二見町南二見22-33)

5 取材対応

(1)放流当日

放流当日に現地取材を希望される場合は、別紙申込票を記入いただき、7月31日(水)までに当課あてメールで申込みください。

なお、今回は海岸西側の防波堤上から放流するため、船舶の使用は予定していません。

(2)生産状況

生産状況や施設の取材を希望される場合は、8月2日(金)まで(公財)ひょうご豊かな海づくり協会明石事業場内を取材いただけます。

取材を希望される場合は下記にお問い合わせください。

(公財)ひょうご豊かな海づくり協会 電話:078-943-8113

6 その他

8月5日(月)の放流は小雨でも決行しますが、荒天等やむを得ず中止する場合は8月7日(水)に順延します。なお、順延の場合は改めて記者発表します。

駐車場所については、江井島海岸休憩施設の有料駐車場をご利用ください。

※「着底稚ダコ」

マダコは、孵化して約20～30日の間は浮遊し、その後海底に着底して生活します。浮遊期は遊泳力が乏しく捕食される可能性が高いことから、放流後のより高い生残率が期待される着底した稚ダコ(着底稚ダコ)の安定生産に向け技術開発に取り組んでいます。

マダコ種苗生産の概要

1 種苗生産技術開発に取り組む経緯

- (1) マダコは兵庫県の瀬戸内海では古くから漁獲量が多く、夏を代表とする水産物として有名であるが、貧栄養化の影響などから漁獲量の減少が続いており、資源増大の対策が求められている。
- (2) マダコの種苗生産は、1960年代に本県が日本で初めて種苗生産に成功したものの、浮遊後期の大型餌料の大量確保の課題が解決できず量産化に至らなかった。
- (3) 近年の国立研究開発法人水産研究・教育機構や岡山県の研究で、水流装置の開発や初期餌料へのガザミの幼生（ゾエア）の利用などで生残率が向上するなど、放流の目安となる「着底稚ダコ」の量産に繋がる新たな知見が得られた。
- (4) そこで県では、ガザミの放流種苗を生産している（公財）ひょうご豊かな海づくり協会と協力し、令和5年度からマダコ種苗の生産技術開発に取り組み、本格的な種苗放流の実施を目指している。

2 これまでの成果等

- (1) 令和5年度（1年目）の成果
 - ア 6月末に岡山県水産研究所から孵化幼生 5,000 匹の提供を受け、飼育開始。
 - イ 7月末に着底稚ダコを取り上げ、約 2,300 匹の飼育に成功。しかしその後、予見していた共食いにより日齢 55 日目には 320 匹となり、1 回目の試験を終了。
 - ウ 2 回目の試験で、8月中旬に孵化幼生約 50,000 個体を收容したが日齢 7 日程度で大量斃死。原因は不明だが、高水温(27-29℃)の影響と推測。
 - エ 3 回目の試験で、10月～11月にかけて孵化幼生計 2,000 個体を收容。秋に確保できないガザミ幼生に代わる餌料の選定を試みたが、有効な代替餌料を見つけられず、着底稚ダコの生産に至らなかった。
- (2) 令和6年度（2年目）の進捗
 - ア 6月末に県内産親ダコの卵から孵化幼生 17,000 匹を收容し、飼育開始。
 - イ 7月末に着底稚ダコを取り上げし、約 12,000 匹の生残を確認。
 - ウ 8月5日に約 2,000 匹を放流し、残りは生残率向上に向け飼育試験を継続。

3 今後の課題

- (1) 生産技術の安定化、効率化
大型水槽を用いた飼育や飼育装置の改良等、生産技術の開発・改良に取り組み、種苗の生残率の向上や生産の効率化を図る。
- (2) 放流適地の検討
稚ダコの分布場所や生育環境等を調査し、放流に適した場所や条件等を検討することで効果的な放流に取り組む。
- (3) 遊漁者等の一般県民と連携した放流の実施
マダコは遊漁の対象としても人気が高く、県内の一部地域では遊漁者も参加した資源管理の取組が行われており、遊漁者等一般県民も参加した種苗放流の実施と資源管理の意識醸成

を図る。

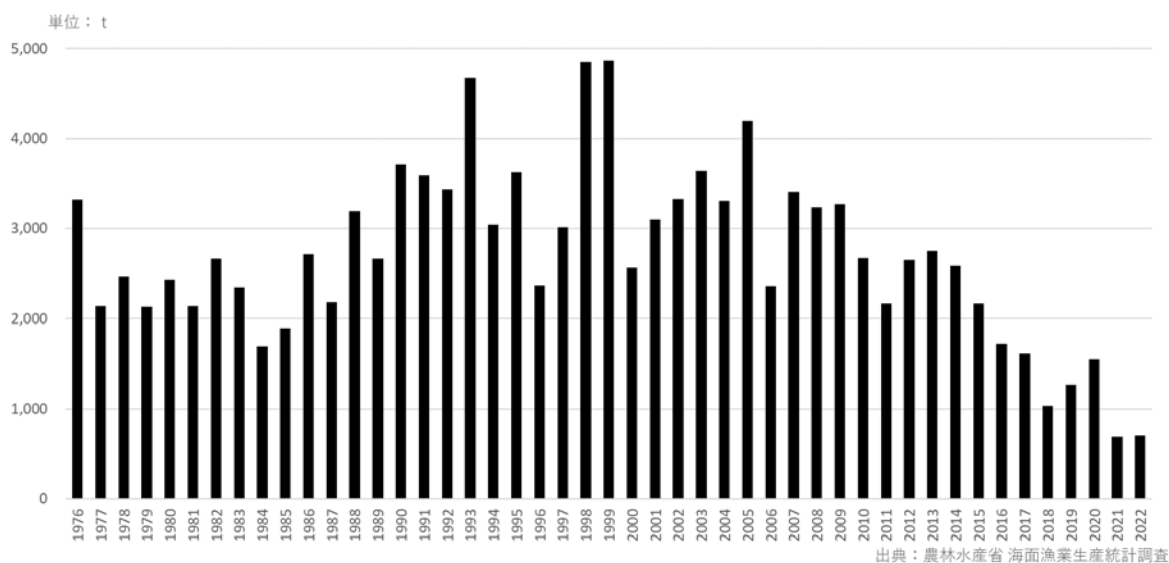
【参考】

1 事業目標

指標名	R5	R6	R7	R8	R9	最終目標
着底稚ダコ※ 生産数	1千匹	5千匹	25千匹	—		25千匹 【R7年度】
マダコ種苗 放流数	—		10千匹	20千匹	100千匹	100千匹 【R9年度】

※浮遊生活を終えた約30日齢の稚ダコ

2 本県瀬戸内海海域におけるタコ類の漁獲量(トン) (海面漁業生産統計調査)



3 マダコの成長過程

【令和5年度技術開発における稚ダコの成長の様子】



卵を管理する親ダコ

浮遊生活を送る幼生

着底直後の稚ダコ

孵化68日目の稚ダコ

4 明石市地先における資源管理等の取組み

産卵用タコつぼの投入や抱卵ダコの再放流といった資源保護、海底耕うんや有機肥料を用いた栄養塩供給といった生息環境改善の取組を実施。

また、遊漁によるタコの採捕も漁獲量の減少要因とも考えられることから、「明石市沿岸のタコ釣りルール」を設けるなど、遊漁者とも調整を図りながら管理に取り組んでいる。

【明石市沿岸のタコ釣りルール】

<https://www.hyogo-suigi.jp/fishing/wp-content/uploads/sites/4/2024/01/141013ce3ed9fa5c206a421dc4c011bb-6.pdf>